

# 海水生態系

## —サロマ湖とオホーツク海の研究から—

¥7,000+ 税

### 1. 高橋正征・白澤邦男

総論：海水生態系とは

#### 1 章 オホーツク海とその周辺の海水とその分布

2. 榎本浩之・館山一孝…………… オホーツク海における海水の分布と消長—マイクロ波リモートセンシングの利用—
3. 青田昌秋…………… オホーツク海・北海道沿岸域における流水勢力の減少傾向（1892 年— 2000 年）
4. 石川正雄・高塚徹・大坊孝春・青田昌秋…………… 北大流水レーダーによるオホーツク海・北海道沿岸の流水観測統計資料（1969— 2001 年）
5. 豊田威信・河村俊行…………… 北海道オホーツク海沿岸部の海水—砕氷船「そうや」による観測から—
6. 若林裕之・中村和樹・西尾文彦…………… 合成開口レーダによる海水観測の現状と将来展望—サロマ湖及びオホーツク海の観測実験から—

#### 2 章 海水の物理・化学環境

7. 白澤邦男・藤芳義裕・前川公彦…………… サロマ湖の水利および海水環境
8. 河村俊行…………… 海水の形成と物理環境特性
9. 河村俊行…………… 構造から見たサロマ湖の海水環境
10. 石川信敬・滝沢厚詩・河村俊行・白澤邦男・Matti Leppäranta…………… 新生海水の成長に伴う海水内部構造と放射特性の変化
11. 岸野元彰…………… 海水と光環境
12. 工藤架…………… 海水の栄養環境
13. Clare F. Postlethwaite・白澤邦男・William J. Jenkins・Carolyn F. Walker…………… 海水と海水の相互関係研究のための野外実験室としてのサロマ湖
14. Mats Granskog…………… オホーツク海とサロマ湖における海水中の粒状物質
15. 乗木新一郎・藤宗智秋…………… オホーツク沿岸域における陸起源粒子の水平・鉛直移動と海水影響の評価

#### 3 章 海水生態系の生物過程

16. 新村陽子・田口哲…………… 海水と海水中の植物プランクトン
17. 田口哲…………… 海水植物プランクトンの生産活動
18. 工藤栄・菓子野康浩…………… 海水藻類の生理生態—サロマ湖での光合成に関する研究例を中心に—
19. 池谷透・川延京子…………… 海水下の植物プランクトン
20. 松本千鶴・齊藤誠一・若土正暁…………… オホーツク海南西部における春季ブルームの経年変化—衛星マルチセンサーリモートセンシングによるアプローチ—
21. 乗木新一郎・松原望美…………… 沈降粒子の化学組成から見たオホーツク沿岸域におけるケイ藻類ブルームと海水影響の評価
22. 安田道恵…………… 海水と周辺水中のバクテリア・微小原生生物とその働き
23. 服部寛・齊藤宏明…………… サロマ湖季節海水直下の動物プランクトンの分布生態
24. 濱岡荘司…………… オホーツク海沿岸部における *Clione limacina* 幼生の季節変化並びに産卵期について
25. 清水幾太郎…………… 海水とサケの回帰
26. 高橋正征…………… 海水生態系の特徴とその存在意義

#### 4 章 ポリニア

27. 白澤邦男…………… ポリニアの物理
28. 小達恒夫・Martin Fortier…………… 北極圏におけるポリニア研究